



特別賞

特別審査員
獎勵賞

非建築的音空間

second summer of love

山脇 建二 (やまわき けんじ)

東京理科大学 理工学部 建築学科

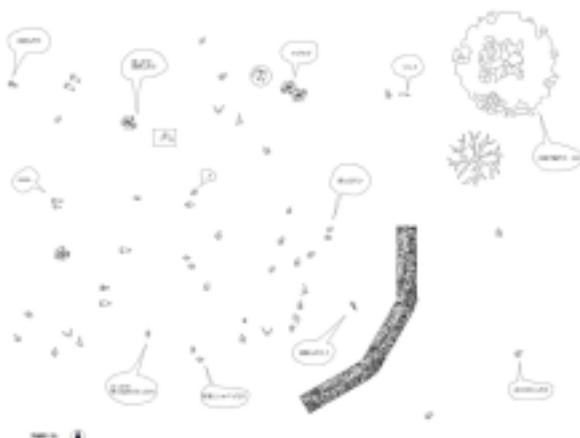


茨城のとある街にある大草原。川に隣接し、穏やかで心地よい場所。

嵐が来るとこの地は沈み、流木、流れてきた土によって、不思議な造形物—壁が出来上がる。それは建築物とも、自然界の物とも異なる。

それは「空間をイメージさせるもの」の最小単位であり、様々なアクティビティを想像させるものとなる。建築で空間を構成するのではなく、その土地の特性を生かし、必要最低限のもので空間の質を変え、人々に空間を意識させる。

やがて再び嵐が訪れると、壁は流され、元の大草原に戻る。



講評 君は不思議な造形物が空間をイメージさせる魅力的切り口を示してくれた。固定観念に縛られがちな私達の足下をすぐう爽やかな手法を大いに評価したい。とはいえたイトルやレイイイの副題にある音=音楽というアクティビティとの整合性を感じられないのはなぜだろう。赤い服のソロバイオリニストがハッハを演奏するシーンは心象風景的で美しく感じたが、それだけで非建築的音空間とするには短絡的で、コンセプション原点と

してのアピール度に欠けるのではないか。ましてやその土地の特性は何處に見出せるのだろうか。素材が漂着するまま、形が出来上がるままの造形物を受取る側の意識に委ねるパフォーマンス空間成立の方向性と、イデア論的意図でもの作りをする創作者の方向性は全く逆だが最終的に落ち着く究極的な美が確かにはあるのだろう。勝手を言えば、「音」を外した「非建築的空間」の方が私にはすんなり腑に落ちる気もする。
(審査員:沼田正雄)